

障がい当事者部会 報告書

会議名	第1回 障がい当事者部会		
日時	令和3年10月25日(月) 15時~17時		
会場	板橋区役所 北館9階 大会議室B		
出席者数	7名(内1名代理、欠席2名)	傍聴者数	2名

報告事項(2件)

議題名	地域生活支援拠点等の整備について
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会を中心に協議を進めてきた「地域生活支援拠点等の整備」について、現在までの検討状況を報告。 ・地域生活支援拠点が持つ5つの機能に関する課題を自立支援協議会や関連する定例会、地域生活支援拠点等運営検討会を経て整理し、課題解決に向け検討を進めている。
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性別の相談体制について、相談先が明確になっているのか。 →現在は、指定、特定一般、関係機関、区立障がい者福祉センター、一般的な相談であれば福祉事務所、計画相談事業所と整理している。 ・緊急時とはどのような想定か。 →身近な例として、介護する親がひとり親で、その方が病気や入院などで不在となり、障がい者が一人自宅に取り残されてしまうケース等を想定している。 ・緊急時は、聴覚障がい者も含めるとの想定でよいか。地域の支援者が必ずしも手話ができるとは限らないことを知っていただきたい。 →幅広い障がいに対応することは検討していかなければならないと認識している。地域で対応しきれない場合、どのような方策がとれるか今後の検討につなげたい。
今後の方向性	引き続き、自立支援協議会や行政関係部署等を中心とした地域生活支援拠点等運営検討会の進捗状況を、適宜、当部会に報告していく。

議題名	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や福祉サービス事業所、障がい者福祉センター、行政機関の職員による検討会にて協議を進めてきた「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」について、現在までの検討状況を報告。 ・今年度は「医療」「障がい福祉・介護」分野の協議を開始したが、緊急事態宣言により、5月・9月の検討会を书面で開催した。
主な意見・質問	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障がいは、40歳から介護保険を使わなければならないため、おとしより相談センターとの連携が不可欠。資料からおとしより相談センターが抜けている理由を伺いたい。 →抜けているのではなく、段階的に連携・整備していくため、まだここでは表記していない。必要な要素であることは理解している。 ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムと、既にある地域包括支援センターの区別が難しい。 →それら2つの区分けについては、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会の進捗とあわせ、整理していく。
今後の方向性	引き続き、自立支援協議会や検討会の進捗状況を、適宜、当部会に報告していく。

協議事項(1件)

議題名	各部会からの質問	
概要	<p>今期からの新しい取組として、他部会から寄せられた障がい当事者部会の部会員に聞きたいことを議論する。今回は、以下4つの質問を題材とする。</p> <p>①地域における合理的配慮の浸透具合等について</p> <p>②差別や偏見など、理不尽な思いや困った体験等について</p> <p>③小児期の療育や保育・教育・医療などに対する支援について</p> <p>④障がいを持つ子の保護者や支援者への支援について</p>	
主な意見・質問	①	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの中継に手話通訳がついたことで、聴覚障がいに関する理解が少し進んだと感じている。しかし、コロナ禍による影響で家にいる時間が増えたため、情報を得にくくなっている。(聴覚) ・高次脳機能障がいという言葉の浸透が進んだとは言えない。高次脳機能障害者ガイドヘルパーは、足立区など一部の地域を除いては、養成もはじまっていない。 ・駅構内のエレベーターやホームドアの設置など、ハード面はある程度進捗した。また、駅周辺の放置自転車は減って来たように思うが、商店街等については、まだまだ自転車が歩く方向と直角に駐輪されており、とても歩きづらい。(視覚) ・以前、当事者が集まる会があり、割と浸透してきたとの声が多かった。合理的配慮については、お金がかからないような調整、との意見もあった。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍の影響で、駅構内の移動時などに声をかけてもらえることが少なくなってしまった。また、右腕につかまらせてもらえなくなった。(視覚) ・マスクをつけられず、施設利用に制限がでて大変困っている方がいる。
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者だけでなく、祖父や祖母、兄弟も含めた家族全体への障がい者理解の啓発やサポートが、安定して子育てをするための糧になる。 ・眼科医は治療には熱心だが、生活や仕事のケアまで助言してくれる医師はまだ少ない。医療や福祉施設、支援団体の連携体制を整えてほしい。(視覚) ・学校に入学する際に、親も子も環境が大きく変わるため、支援してきた方たちと先生方がうまく引き継いでいかれるような支援シートを活用してほしい。
	④	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口対応では、たとえ訪ねた窓口が違ったとしても、次につながるアドバイスやヒントが一つでもあると助かる。 ・これまで支えていただいた支援者がある日突然いなくなったときに慌てる方がいた。福祉サービスがもっとわかりやすく伝わるといい。
協議結果	<p>質問に対する意見については、質問が出された各部会へ報告する。</p> <p>適宜、他部会から障がい当事者部会の部会員に伺いたいことがあれば、当部会の議題として取り上げていく。</p>	